

テクノロジー諮問委員会（第5回） 議事要旨

日時：2017年3月10日 8:00-9:35

場所：組織委員会虎ノ門オフィス9階会議室「TOKYO-1」

議論内容（委員の主な意見）

【盛り上げのための情報発信について】

- ・これから先いろいろな分野のアーティストやクリエイターの人をお願いをして、その人なりの応援メッセージをいただき、そのメッセージをサイトに蓄積して、バックナンバーも含めて参照できるように考えている。今までにないオリンピック・パラリンピックに対するプロモーションになるのではと思う。文化・芸術で有名な人たちが自発的に発信してもらえるようなお願いをしたい。あくまでも盛り上げてもらいたいので、それぞれの価値観でそれぞれの視点で発信してもらいたいと思う。
- ・そのメッセージを SNS で繋ぎ、外部と連携することが重要。

【議論テーマ1】

「競技場 Wi-Fi 環境整備について」

- ・費用負担問題が原因でテクニカルな部分の検討がなかなか進まないと、いざ Wi-Fi 環境整備が動き出した時のスピードが落ちるので、大会に向けて必要と思われる技術的なイメージを早期に明確化しているところである。
- ・IOC との合意では、組織委員会では大会関係者用向けの Wi-Fi 環境は提供する義務があるが、観客用までは求められていない。一方で、環境整備を検討する施設オーナーから見れば、関係者用か観客用かの違いはなく、そもそも観客席も含めて施設として Wi-Fi 投資する価値があるかどうか、という目で見ってくる。その意味から、基本的には観客用も含めて Wi-Fi 整備を提案している。
- ・整備について、全体の取りまとめをする人がいないというのが現状。そこで、組織委員会で委員会を作って話し合いの場を設ける必要があると認識している。一つ一つの競技場ごとに考えるだけでなく、誰かが横断的に見ないとダメ。
- ・最低限必要とされるべきレベルや、来場者の何割くらいをカバーできるか、なども考えなければならない。
- ・予算は限られているだろうから、全体の満足度を上げたい、イノベティブを感じる人を増やしたいのであれば、メリハリをつけるべきだろう。
- ・サービスレベルのイメージと照らし合わせて考える必要がある。

(設備投資以降の維持費用が課題)

- とくに地方会場については、競技場 Wi-Fi だけで考えても解は見えにくい。スポーツツーリズム振興のトータルな観点から、地方をどう活性化させていくか、が考えるべきテーマ。競技場 Wi-Fi はパーツに過ぎない。
- ユーザー認証連携に合わせて、これで行くぞという流れを作ってほしい。きちんと議論すれば決まっていくと思うので良い機会にしてもらいたい。

【議論テーマ2】

「モバイルアプリケーションの開発構想について」

(ユーザーインターフェース)

- モバイルアプリケーション開発では、外部システムとの連携 API をどう設定するかが重要。API の切り方によって、外部との連携が左右される。
- アジャイル開発のやり方を導入すれば、ユーザー目線でどんどん改良していけると思う。今回はダイバーシティ等も入ってくることを考えると、ユーザーテストのクライテリア等の定義をすべきではないか。
- ユーザーをどうインボルブするかが重要だと思う。

(ユーザーエクスペリエンス (顧客体験))

- 過去大会では直前にリリースされているが、良いアプリを開発するには事前の大会の中で少しずつ改良されていくようなプロセスが必要。モバイルアプリコンテストやハッカソンのような機会を活用し、参加者をどう取り込んでいくかが重要である。
- 大学の授業の演習で半年かけてグループプロジェクトを行った。その中で学生たちは自分たちが参加したいというアイデアを考えた。バーチャル聖火リレー (世界のモニュメントを光らせる応援をする) 等があった。また、安心・安全な東京でアートとテクノロジー、モニュメントを全て融合できれば良いと思う。観客への片方向の情報提供も大事だが、若い人たち、世界の人たちを巻き込んだ双方向のインタラクションも重要。例えば、今すぐにアプリを立ち上げて、大学生にテストさせるなどし、3年間テストを行えば、本番の2か月前には、非常に素晴らしいアプリになるのではないか。
- そのグループの中に感度の高いアスリートを入れるのもいいのでは。
- 「ユーザー参加型のモバイルアプリケーションの戦略」と書き直した時に、「関連システム全体のアーキテクチャ設計」がこのままで良いのか。アーキテクチャをどのようにすべきかで、どのような参加型のアプリを作れるかが決まってくると思う。アーキテクチャを決める前に、もう少しアイデアソン等を開催し、なるべく具体的なイメージ、品揃えを持ってからの方が効率的ではないか。

- アスリート体験は発信力が大きいと思う。彼らをいい意味でびっくりさせることができれば、勝手に情報発信してくれる。アスリートにどのような体験をしてほしいか、というのをアイデアソンのテーマにしても良いのでは。例えば普段の大会でどういう動線どういう情報を得ているのかなど、アスリートの方を巻き込んで議論できればと思う。
- アスリートが東京大会は良かったと思ってもらえれば良いと思う。アスリートは観客でもあり情報発信するメディアでもある。